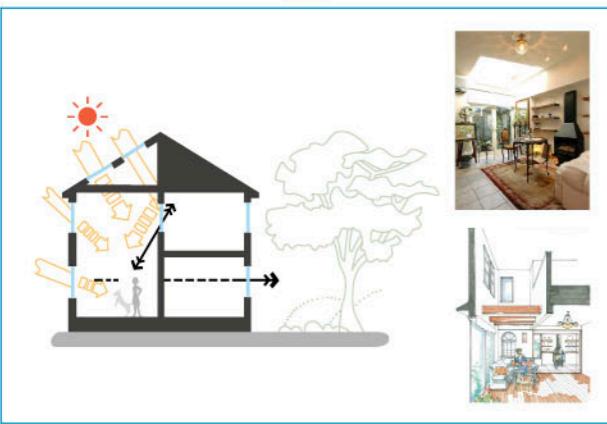
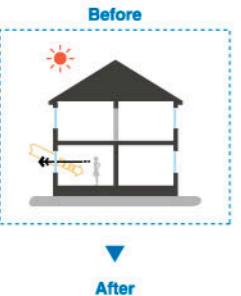




第3回
コンパクトな暮らし



CASE2 2階の一部を吹き抜けにした減築リフォーム

薄暗かった居間が、吹き抜けの誕生によって広々と明るい空間に。家中やわらかな光に包まれ、心地よい住まいに生まれ変わる。

一番大切なのは、10年後、20年後の自分たちの暮らしを夫婦や家族の間できちんと話すことでしょう。家は暮らしの延長線上にあるものなのです。

コンパクトな家で豊かに暮らす

たとえば「ケース1」を見てください。これは2階建を平屋にした減築リフォームの例です。家全体が明るく使いやすくなり、かえって広やかな気分で暮らせるようになります。そんな自分が把握できる、手の内のわが家で暮らすことが、多くの人の望みではないでしょうか。

2人暮らしになつたご夫婦が将来の生活を考え、バリアフリー化を実現した家へとリフォームされました。2階を取り払い、骨組だけのスケルトン状態にして改裝。どこにいてもお互いの様子がわかる設計としました。耐震性と防寒性を強化し、風呂やキッチンなど設備も一新するなど、機能的な家へと生まれ変わっています。このリフォームによつて、120m²から65m²へ減築しましたが、「ほとんど使ってい

るだけの住まいになります。やがては1人暮らしとなる日もくるでしょう。そのとき、4人家族のスタイルで築かれた家は、はたして今の2人に暮らしやすい家でしょうか。家は持つたときがスタートライン。ライフスタイルや家族構成の移り変わりに合わせて住みやすく変えていくべきものではなく、暮らしにあわせて家のままに暮らしていくべきを教えていく。マイホームを持つ

子育て期に購入したマイホームも、子が巣立てば、夫婦2人だけの住まいになります。やがては1人暮らしとなる日もくるでしょう。そのとき、4人家族のスタイルで築かれた家は、はたして今の2人に暮らしやすい家でしょうか。家は持つたときがスタートライン。ライフスタイルや家族構成の移り変わりに合わせて住みやすく変えていくべきものではなく、暮らしにあわせて家のままに暮らしていくべきを教えていく。マイホームを持つ

さて、子育て終了後、人生の再スタートを考えたとき、「コンパクトな暮らし」に憧れ、リフォームを考える人が多くなります。その際、自分の生活において必要最小限の面積はどのくらいなのか、ぜひ平米数で考えてみてください。ここがライフスタイルに適した家をつくる第一のポイントです。大きなスペースをボンと与えられて使うよりも、そこから家づくりの検討を行うほう

一歩あります。

さて、子育て終了後、人生の再スタートを考えたとき、「コン

パクトな暮らし」に憧れ、リフォ

ームを考える人が多くなりま

す。その際、自分の生活におい

て必要最小限の面積はどのくらい

なのか、ぜひ平米数で考えて

みてください。ここがライフスタ

イルに適した家をつくる第一の

ポイントです。大きなスペースを

ボンと与えられて使うよりも、最

小限の面積をまず想定し、そこ

から家づくりの検討を行なは



CASE1
2階建を平屋にした減築リフォーム

どこにいてもお互いの様子がわかり、掃除もいき届く、暮らしやすい広さ。大幅に減築したが住み心地は大幅にアップした。



住生活研究所 Life Style Labo

西田さんが所長を務める「三井のリフォーム 住生活研究所」は、2007年10月にオープンしたリフォーム業界初のシンクタンクです。研究所のスタッフ全員が女性のリフォームプランナーで、座談会形式の「リフォーム・サロン」やセミナー形式の「リフォーム・カレッジ」など、累計10万にものぼるリフォーム実績をもとに、さまざまな情報発信を行なっています。

「三井のリフォーム住生活研究所」所長
西田恭子(にしだ・きょうこ)さん
住宅リフォーム設計を手がけ25年。その経験からリフォームの情報収集・分析をし発信している。一级建築士



読者プレゼントを実施中!
詳しくはP.95をご覧ください

次回のテーマは
「中古マンションを買って、リフォーム」
です。お楽しみに!